

第15回宇宙民生利用部会 議事要旨

1. 日時：平成29年5月10日（水） 16:00 - 17:30

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、白坂部会長代理、石田委員、岩崎委員、遠藤（信）委員、遠藤（典）委員、高山委員、山川委員、山本委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、高見参事官、行松参事官、松井参事官、佐藤参事官、守山参事官

4. 議事要旨

(1) 準天頂衛星システムの利活用の促進等について

内閣府から説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、意見等）

位置情報は国家として重要な情報であり、高精度測位に対する国家としての在り方を考えることが重要。

安価なレーザー製造や自動車への実装等を通じて、利用促進の取組を進めていくことが重要。

各種センシングデータは位置情報と組み合わせることによって価値が増大するので、センサと位置情報とのリンクの在り方も議論すべき。

世界の事業者が活発に投資しているコネクテッドカーでは、「測位」に加えて「通信」も重要になることから、両者を組み合わせる視点も重要。

(2) スペース・ニューエコノミー創造ネットワーク（S-NE T）について

事務局から説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、意見等）

本年3月21日にS-NE Tの枠組みで開催されたビジネス交流会に参加したが、初対面の参加者同士が少人数で話すことができ、新しい知見を得ることができる貴重な機会となった。

欧米では、ビジネス交流会を契機に新ビジネスが立ち上がるといった、いわゆるオープンイノベーションが活発である。S-NE Tでも、優れたコーディネータを起用するなどして、さらに一歩踏み込んだ取組をしていただきたい。

(3) リモセン衛星の利用ニーズの各プロジェクトへの反映について

事務局から説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、意見等）

リモセン衛星の具体的な利用実証を通じて、衛星開発を評価・検証する仕組みを検討してみてもどうか。

(4) 宇宙産業振興小委員会の検討状況について
事務局から説明を行った。

(5) 中間取りまとめに向けた検討課題について
内閣府から説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。(以下、意見・質問等、 回答)

東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組(工程表32)に関して、今後の具体的なプランはあるのか。

平成30年度に運用が開始される準天頂衛星の利用実証等を通じて、今後具体的な取組を検討したい。

利用ニーズの各種衛星プロジェクトへの反映の検討(工程表3)については、地球環境保全面での利用も検討してはどうか。

以 上